

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査 における分析結果 報告書

## 授業改善のポイント

### 【調査目的】

- 1 市教育委員会は、児童・生徒の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教育行政施策に生かす。
- 2 各学校は、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る。
- 3 市教育委員会は、市民に対し、市の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

### 【調査の対象学年】

- 小学校第6学年 1249名受験  
中学校第3学年 1142名受験

### 【調査日】

令和3年5月27日（木）

### 【調査の内容】

- 1 教科に関する調査：小学校（国語、算数）、中学校（国語、数学）
- 2 児童・生徒質問紙調査
- 3 学校質問紙調査

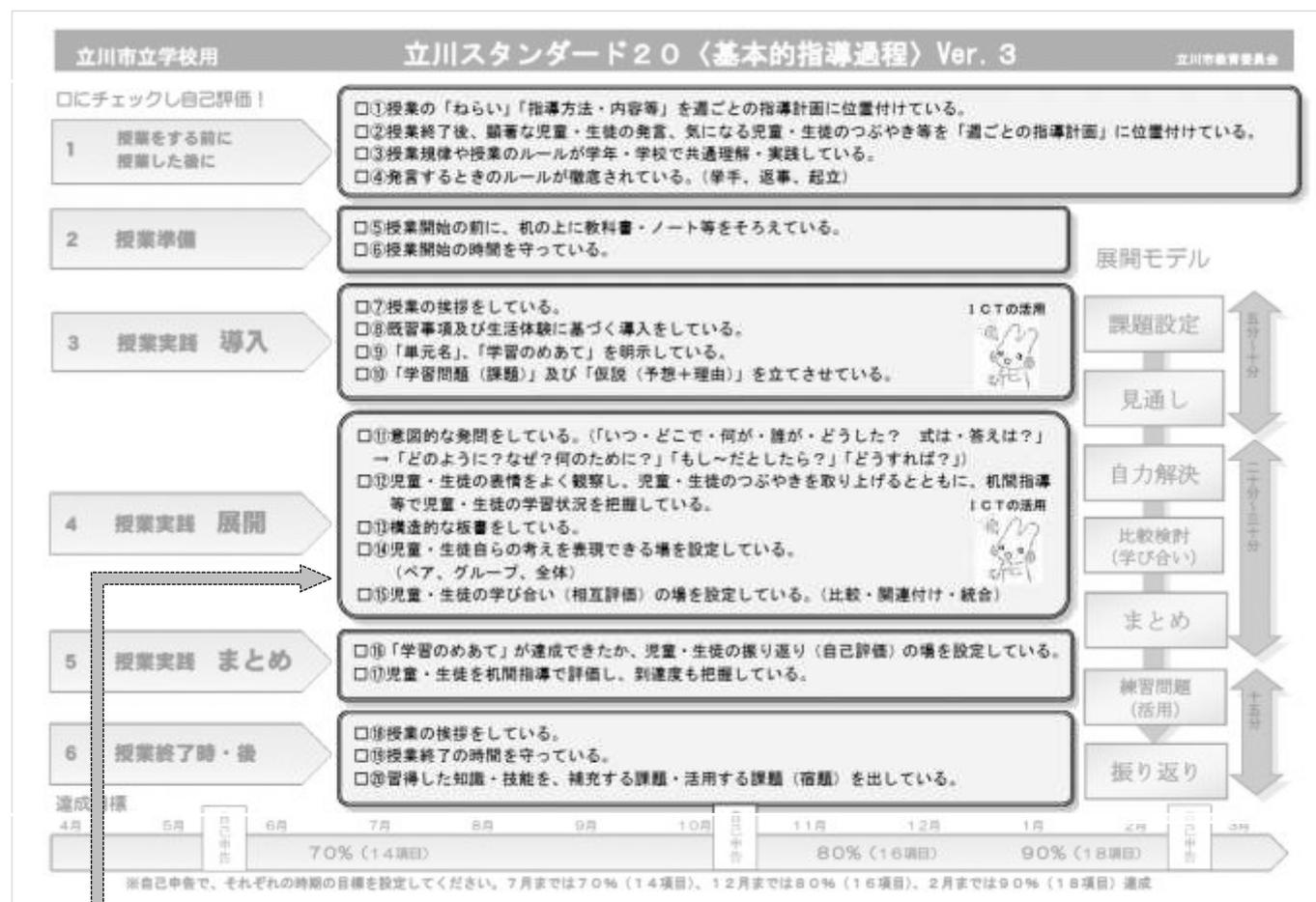
### <目次>

○ 立川スタンダード〈基本的指導過程〉を活用した授業改善のポイント…	1
1 小学校国語の調査結果……………	3
2 小学校国語の問題と分析・授業改善のポイント……………	5
3 小学校算数の調査結果……………	7
4 小学校算数の問題と分析・授業改善のポイント……………	9
5 中学校国語の調査結果……………	11
6 中学校国語の問題と分析・授業改善のポイント……………	13
7 中学校数学の調査結果……………	15
8 中学校数学の問題と分析・授業改善のポイント……………	17
9 学習に関する調査結果の概要〈授業改善のポイント〉……………	19
10 生活習慣に関する調査結果の概要……………	21
11 学校質問紙調査の結果……………	23
12 各教科等における授業改善のポイント……………	25
13 カリキュラム・マネジメント「評価」「改善」の視点……………	27

令和3年11月  
立川市教育委員会

## ○立川スタンダード〈基本的指導過程〉を活用した授業改善のポイントについて

本市では、教育委員会で作成した「立川スタンダード 20〈基本的指導過程〉 Ver.3」を市内各校に周知し、各学級での授業の基本的な展開の在り方の指針を示すことを通して学力向上の取り組みを進めてきている。「立川スタンダード〈基本的指導過程〉」について、次に示す。



- ⑪意図的な発問をしている。「いつ・どこで・何が・誰が・どうした？ 式は・答えは？」  
→「どのように？なぜ？何のために？」「もし～だとしたら？」「どうすれば？」
- ⑫児童・生徒の表情をよく観察し、児童・生徒のつぶやきを取り上げるとともに、机間指導等で児童・生徒の学習状況を把握している。
- ⑬構造的な板書をしている。
- ⑭児童・生徒自らの考えを表現できる場を設定している。  
(ペア、グループ、全体)
- ⑮児童・生徒の学び合い（相互評価）の場を設定している。  
(比較・関連付け・統合)

この「立川スタンダード 20〈基本的指導過程〉 Ver.3」の中で、全国学力・学習状況調査等で問題場面として設定される学習活動にかかわるものは、「4 授業実践 展開」に示されている内容とそれに基づいた言語活動の資料として添付されているAからEの言語活動である。

「4 授業実践 展開」の内容は上記のように示されている。

また、言語活動の資料として添付されているAからEの言語活動は次のように示されている。

## 4 授業実践 展開⑭（児童・生徒自らの考えを表現できる場を設定している）における言語活動5点

A 体験から感じ取ったことを伝え合う

B 調べた事実を正確に理解し、理解したことを伝え合う

C 発見したきまり・ルール・しくみなどを伝え合う

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける

E 互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

小学校  
低学年小学校  
中学年・高学年小学校・高学年  
中学校INPUT  
〈読み解くプロセス〉連続テキスト（文章）や  
非連続テキスト（図表・  
グラフ・写真等）から必  
要な情報を正確に取り出  
す力取り出した複数の情報  
を比較・関連付けて読  
み取る力読み取った内容の意図  
や背景、理由を考えて  
理解・解釈・推論して  
解決する力OUTPUT  
〈話型〉I 主張  
「私は・・・だと思いま  
す。」II 理由・根拠  
「なぜかという  
と・・・だからでIII 意思決定  
「だから私は、これか  
ら・・・します。  
（していきませう。）」

A～Eの言語活動や授業展開の在り方の特質を踏まえ、令和3年度全国学力・学習状況調査の各問題との関連性を検討し、課題が見られる問題について、「立川スタンダード20 Ver.3における言語活動5」を活用して、授業改善のポイントを示す。

## 【主な参考資料】

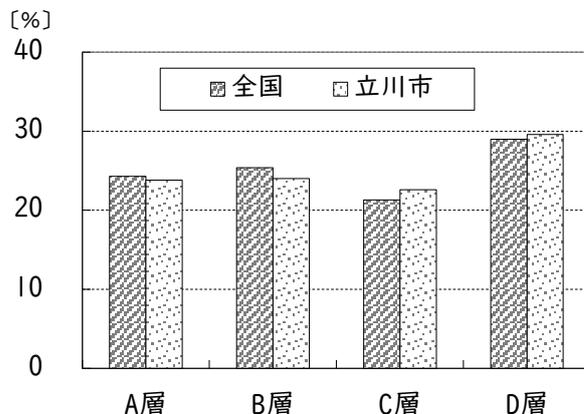
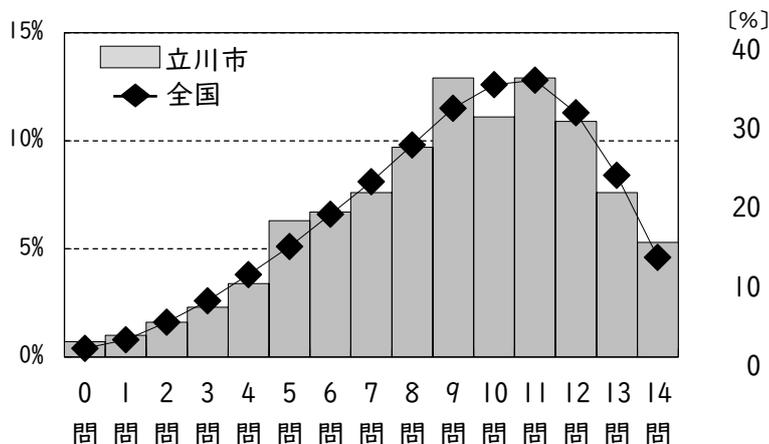
- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編及び算数編（平成29年7月 文部科学省）  
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編及び数学編（平成29年7月 文部科学省）
- 令和3年度 全国学力・学習状況調査 解説資料（小学校国語・算数、中学校国語・数学）  
児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて  
（令和3年5月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- 令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書（小学校国語・算数、中学校国語・数学）  
児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて  
（令和3年8月 文部科学省 国立教育政策研究所）
- 全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会資料  
小学校国語（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 学力調査官・教育課程調査官 渡辺 誠）  
小学校算数（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 学力調査官・教育課程調査官 稲垣 悦子）  
中学校国語（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 学力調査官・教育課程調査官 黒田 諭）  
中学校数学（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 学力調査官・教育課程調査官 伊吹 竜二）  
令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた小学校（中学校）授業アイデア例  
（国立教育政策研究所HP <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>）

# Ⅰ 小学校国語の調査結果

## (1) 国語の調査結果の概要

平均正答率 [%] 立川市 64.0 全国 64.7

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



### ◎概要の分析

※平成31年度と同様、全国と立川市との比較を行った。

- ・正答数分布をみると、正答数が少ない割合が全国とほぼ同数である。
- ・四分位でみると全国と比較して、A・B層の割合が低く、C・D層の割合が高い。

## (2) 観点別結果

分類			対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
				立川市	全国 (公立)
			全体	64.0	64.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	65.0	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0	-	-
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	-	-
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	80.3	77.8
		B 書くこと	2	59.2	60.7
		C 読むこと	3	50.1	47.2
主体的に学習に取り組む態度			0	-	-

### ◎観点別結果の分析

- ・全体では、全国との差が0.7ポイント低いですが、A 話すこと・聞くことは2.5ポイント、C 読むことは2.9ポイント高い。
- ・(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項は3.3ポイントのマイナスであった。
- ・知識及び技能のうち正答率が最も低かったのは、修飾と被修飾との関係を選択式で答える問題であった。
- ・全問題において本市の無回答率が全国を上回っているにもかかわらず、全体平均の差が0.7ポイントしかない。

### (3) 国語の設問ごとの正答率と分析

設問番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市 (公立)		全国 (公立)	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1ー (選択式)	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるか	79.5	0.8	77.5	0.3
1二 (選択式)	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解することができるか	78.9	0.8	74.9	0.4
1三 (選択式)	津田梅子についての【スピーチ】の練習の〔 〕の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるか	82.5	0.8	81.0	0.4
2ー (選択式)	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるか	82.9	1.0	77.6	0.4
2二 (選択式)	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるか	89.2	1.0	87.5	0.3
2三 (記述式)	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるか	35.3	5.1	34.4	4.1
2四 (記述式)	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるか	32.2	6.6	29.7	5.5
3ー (選択式)	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるか	69.9	4.7	64.8	2.1
3二 (記述式)	丸山さんの【文章の下書き】の 部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか	48.5	14.3	56.6	9.6
3三 (1) ア (短答式)	丸山さんの【文章の下書き】の 部アを漢字を使って書き直す (ころがっている)		77.1	13.1	78.3	8.8
3三 (1) ウ (短答式)	丸山さんの【文章の下書き】の 部ウを漢字を使って書き直す (つみ重ね)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるか	48.4	20.6	54.4	14.4
3三 (1) エ (短答式)	丸山さんの【文章の下書き】の 部エを漢字を使って書き直す (げんいん)		72.3	11.5	79.0	6.6
3三 (2) イ (選択式)	丸山さんの【文章の下書き】の中の 部 イで 部「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるか	62.9	8.2	67.0	3.8
3三 (2) オ (選択式)	丸山さんの【文章の下書き】の中の 部 オで部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができるか	40.4	8.7	43.6	4.1

※表内、立川と全国のうちいずれか正答率が高い方、無回答率が低い方に網かけ

## 2 小学校国語の問題と分析・授業改善のポイント

### 問題3二（記述式）の分析（正答率に着目）

#### 【問題の概要】

丸山さんの【文章の下書き】の-----部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す  
 ※この問題では、「掃除担当の人などがやればよい」という考えに反対する意見とその理由について、西田さんの話から言葉や文を取り上げて記述式で解答する。

◇解答類型 ※類型1～38(最大)…正答・予想される解答、類型99…類型1～38以外の回答、類型0…無回答（記入のないもの）

	1（正答）	2	3	4	5	99	無解答
市(%)	48.5	0.3	12.2	12.9	9.2	2.5	14.3
国(%)	56.6	0.3	12.0	11.8	7.3	2.5	9.6

#### 【分析】

- ・市の記述式の設問の中では最も正答率が高いものの、市と国の正答率の差は-8.1ポイントで、無回答の割合は国の平均を上回る。
- ・解答類型3は、自分の考えに説得力をもたせるために、事例を用いて詳しく書き直そうとしている丸山さんの意図を捉えることができていないと考えられる誤答、解答累計4は、反対意見の理由を書いていることによる誤答、回答累計5は、反対意見の理由に加えて、西田さんの話から言葉や文を取り上げて書いていない誤答の割合である。

#### 【指導に当たって】

自分の考えを詳しく書くには、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを述べることが大切であり、目的や意図に応じて、詳しく書くのと簡単に書くのとでは、どちらが効果的かを自ら判断しながら、書き表し方を工夫することも重要となる。

### 立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

#### A 体験から感じ取ったことを伝え合う

を活用する。

学習過程を一層明確にして示された指導事項は言語活動を通して指導する

「A話すこと・聞くこと」領域の構成

	学習過程		学習過程		学習過程
話すこと	話題の設定	聞くこと	話題の設定	話し合うこと	話題の設定
	情報の収集		情報の収集		情報の収集
	内容の検討		構造と内容の把握		内容の検討
	構成の検討		精査・解釈		話し合いの進め方の検討
	考えの形成		考えの形成		考えの形成
	表現		共有		共有
	共有				

児童自身が学習過程を自覚し、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切です。

「B書くこと」領域の構成

「C読むこと」領域の構成

体験したことを基に、考えと理由や事例のつながり確かめながら書くには、自分の考えを支える理由や事例を検討する活動を学習過程に位置付けることが考えられます。  
 友達同士で確認し合い、読み手の視点で考えを深めることも大切です。

	学習過程
書くこと	題材の設定
	情報の収集
	内容の検討
	構成の検討
	考えの形成
	記述
	推敲
共有	

	学習過程
読むこと	構造と内容の把握 (説明的な文章)
	構造と内容の把握 (文学的な文章)
	精査・解釈(説明的な文章)
	精査・解釈(文学的な文章)
	考えの形成
	共有

## 問題3三(1)ウの分析(無解答率に着目)

### 【問題の概要】

丸山さんの【文章の下書き】の\_\_\_部ウを漢字を使って書き直す(つみ重ね)

※この問題では、「積(み)」の漢字を正しく短答式で解答する。

◇解答類型 ※類型1~38(最大)…正答・予想される解答、類型99…類型1~38以外の回答、類型0…無回答(記入のないもの)

	1(正答)	99	0(無解答)
市(%)	48.0	31.1	20.6
国(%)	58.4	31.2	14.4

### 【分析】

- ・「積み」と解答できた児童は半数以下で、全国平均より-10ポイントであった。
- ・解答累計99の割合が大きく、正しく書けていない児童の割合が高い。
- ・小学校国語において無回答の割合が最も高く、全国と比べても高い割合である。
- ・本市の小学校国語では、全問題の無回答率が全国平均を上回っている。

### 【指導に当たって】

漢字の指導に当たっては、日常生活で適切に使うことができるようにすることが大切である。半数以上の児童が学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができていないとことを踏まえた指導の改善が求められる。

紙に書くこと、タブレット端末を活用して書くことなど、取組を工夫して、文字を読み書きできることの実感できるような経験や、漢字を調べたり、活用したりする学習を取り入れることも有効である。

## 立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

C 発見したきまり・ルール・しくみなどを伝え合う

を活用する。

調べたり活用したりする学習を通して、正しい漢字を習得できるよう指導する

漢字を調べたり活用したりする学習(例)

#### ①同じ音で読む漢字を集める

同音異義語など、同じ音で読む漢字を集めたり、その意味を辞書で調べたりする活動を取り入れる。

#### ②似た形の漢字を集める

同じ部分をもつ漢字や似た形の漢字を集め、辞書で「つくり」による意味の違い、「へん」による意味の違いなどを調べる活動を取り入れる。

#### ③間違えやすい漢字を集める

児童が辞書を引いたときや、日常生活の中で見つけた、間違えやすい漢字を紹介し合う活動を取り入れる。児童が自分たちで見つけることで、漢字を正しく使おうとする意識を高める。

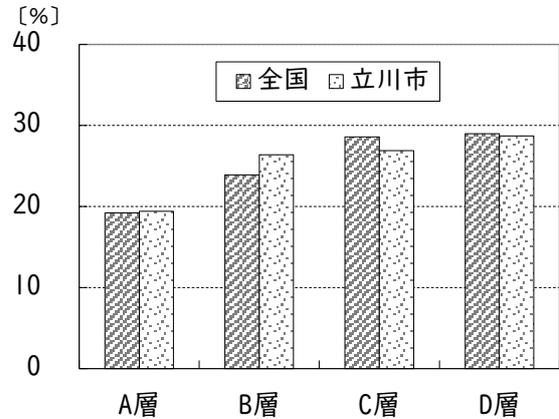
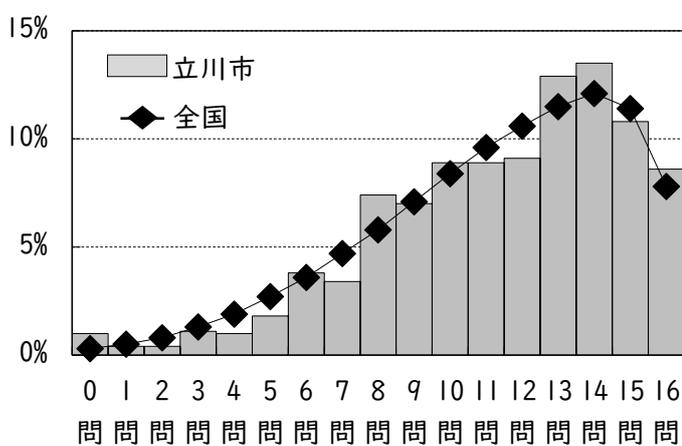
文や文章の中で、漢字を正しく使うためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい漢字を習得できるようにすることが大切です。

### 3 小学校算数の調査結果

#### (1) 算数の調査結果の概要

平均正答率 [%] 立川市 71.0 全国 70.2

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



#### ◎概要の分析

※平成31年度と同様、全国と立川市との比較を行った。

- ・正答した人数に対する正答数分布の割合は概ね全国を上回っている。
- ・本市におけるC・D層の正答数割合の低さは、B層の割合の高さによるものと考えられる。
- ・四分位で見ると全国と比較して、A・B層の割合が高く、C・D層の割合が低くなっている。

#### (2) 観点別結果

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	A 数と計算	4	62.0	63.1
	B 図形	3	60.0	57.9
	C 測定	3	75.9	74.8
	C 変化と関係	3	76.5	75.9
	D データの活用	5	78.3	76.0

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
評価の観点	知識・技能	9	75.8	74.1
	思考・判断・表現	7	65.3	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-

#### ◎観点別結果の分析

- ・B図形、C測定 変化と関係、Dデータ領域は、全国の平均正答率を上回っている。
- ・全問題において本市の無回答率は全国を上回っているにもかかわらず、A数と計算領域以外の分類における平均正答率が全国を上回っており、全ての分類で60%を超えている。

### (3) 算数の設問ごとの正答率と分析

設問番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市 (公立)		全国 (公立)	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1(1) (記述式)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できるか	60.8 ↑	1.8	62.5 ↑	1.7
正答率に着目						
1(2) (短答式)	500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができるか	88.7	2.2	86.7	1.7
1(3) (選択式)	AとIのふたつの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解しているか	56.5	2.2	55.8	1.4
1(4) (短答式)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができるか	90.3	1.1	89.2	0.7
1(5) (短答式)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができるか	84.2	1.8	85.1	1.5
2(1) (短答式)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解しているか	57.4	2.9	55.1	1.6
2(2) (選択式)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができるかどうかをみる。	76.5	1.2	72.5	1.0
2(3) (記述式)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるか	46.0	5.9	46.0	4.6
3(1) (選択式)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができるか	96.2	1.0	95.8	0.4
3(2) (選択式)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるか	92.6	0.9	90.7	0.4
3(3) (選択式)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができるか	72.1	2.3	67.5	1.7
3(4) (記述式)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるか	53.2	10.9	52.0	10.3
3(5) (選択式)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができるか	77.4	1.9	73.9	1.3
4(1) (選択式)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるか	82.3	2.5	83.0	1.7
4(2) (選択式)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができるか	56.0	3.2	55.5	2.0
4(3) (記述式)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるか	48.8	12.5 ↑	51.5	10.3
無回答率に着目						

## 4 小学校算数の問題と分析・授業改善のポイント

### 問題1(1)の分析(正答率の差に着目)

#### 【問題の概要】

二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く

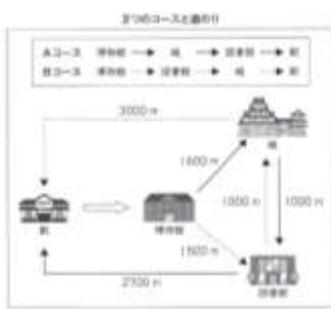
※この問題では、AコースとBコースの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えの200とを記述式で解答する。

◇解答類型 ※類型1~38(最大)…正答・予想される解答、類型99…類型1~38以外の回答、類型0…無回答(記入のないもの)

	1 (正答)	2	3	4	5 (正答)	6	7	8	9 (正答)	10	11	12	13	99	無解答
市(%)	60.1	0.2	14.7	11.9	0.5	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.5	1.3	0.9	7.7	1.8
国(%)	61.9	0.4	12.1	13.1	0.2	0.0	0.2	0.0	0.5	0.0	0.2	1.3	1.3	7.2	1.7

#### 【分析】

- ・市内算数の記述式問題のうち、最も正答率が高いものの、全国平均を1.8ポイント下回っている。
- ・解答類型3、4は、求め方と答えのうち一部に誤りや未記入のある誤答の割合である。



解答類型1 A、Bコースの道のりを求める A  $1600+1000+2700=5300$  B  $1500+1000+3000=5500$   
Aコースの道のりがBコースより何m短いかを求める  $5500-5300=200$

解答類型5 A、Bコースに共通する1000mを除く  
A、Bコースそれぞれの残りの道のりを求める A  $1600+2700=4300$  B  $1500+3000=4500$   
Aコースの道のりがBコースの道のりより何m短いかを求める  $4500-4300=200$

解答類型9 A、Bコースで、道のりが異なる二組の部分の道のりについて、それぞれ差を求める  
A(図書館~城)とB(図書館~城)との差  $1600-1500=100$  Aコースが100m短い  
A(図書館~駅)とB(城~駅)との差  $3000-2700=300$  Aコースが300m短い  
その差を用いてAコースの道のりがAコースの道のりより何m短いかを求める  
 $300-100=200$

#### 【指導に当たって】

〇〇については、例えば、道のりを求める式を立てた後に、必要な数値が含まれているかどうかを具体的な場面に対応させて確認する活動が考えられる。

図に示された数値と式を関連付けること、問題解決の過程を他者と数学的に表現し伝え合うなどして、工夫して計算するよさが実感できるようにすることも有効である。

### 立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

**D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける**

を活用する。

二つの問題発見・解決の過程を相互に関わり合わせる学習過程をふまえて指導する

日常生活の問題を解決するために、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことができるようにすることが大切です。

式は、ある場面での数量の関係を表しているという見方ができることが大切です。上記、解答類型5や9については、式からそれに対応する具体的な場面を読む活動も考えられます。



小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編より

## 問題4 (3) の分析 (無解答率に着目)

### 【問題の概要】

30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く

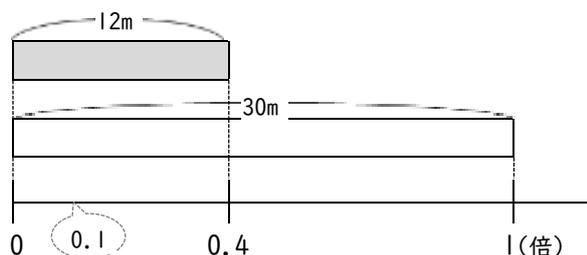
※この問題では、0.1に当たる長さが3mであることを表す言葉や数、12mは3mの四つ分になることを表す言葉や数について、全て記述式で解答する。

◇解答類型 ※類型1~38(最大)…正答・予想される解答、類型99…類型1~38以外の回答、類型0…無回答(記入のないもの)

	1 (正答)	2	3	4	5	6	7	8	9	99	無解答
市(%)	48.8	11.8	4.6	0.5	3.4	0.0	2.7	8.0	1.4	6.3	12.5
国(%)	51.5	10.8	3.8	0.2	3.9	0.0	3.0	8.9	1.5	6.0	10.3

### 【分析】

- ・市内算数では最も正答率が低く、無回答率も高い。
- ・解答類型2は、30mを1としたとき、0.1に当たる長さが3mになることは、記述できているが、12mは3mの幾つ分に当たるかについては記述できていない児童である。



既習の小数の意味や表し方を基にして、基準となる1に対する大きさを10等分し、はしたを小数を用いて表し、倍の意味について理解できるようにします。

### 【学習指導に当たって】

- ・数量関係を正しく捉え、正しく立式することや、計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができるようにする。
- ・倍の意味について、小数を用いた場合でも、基準量を1としたときに比較量が幾つに当たるかという意味について理解できるようにする。

## 立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

C 発見したきまり・ルール・しくみなどを伝え合う

を活用する。

「数学的活動の取組における配慮事項」を踏まえ、小数を用いた場面も倍の意味を理解できるように指導する。

### 数学的活動

#### 算数的活動

(平成20年告示学習指導要領学習指導要領)

「児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数に関わりのある様々な活動」

- ・算数的作業的・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動
- ・算数に関する課題について考える活動
- ・算数の知識を基に発展的・応用的に考える活動
- ・考えたことなどを表現したり、説明したりする活動

※これらの活動は全て数学的活動に含まれる。

- ・各学年の内容に示す事項については、数学的活動を通して指導する
- ・数学的活動を楽しめるようにする機会を設ける
- ・見通しをもって数学的活動に取り組み、振り返る
- ・具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図る機会を設ける
- ・考えを学び合うことやよりよく問題解決できたことを実感する

(数学的活動の取組における配慮事項より)

問題解決の過程において、友達と考えを伝え合い、少しずつよりよい方法を用いることができるようにして、よりよく問題解決できたことを実感できるようにすることが大切です。

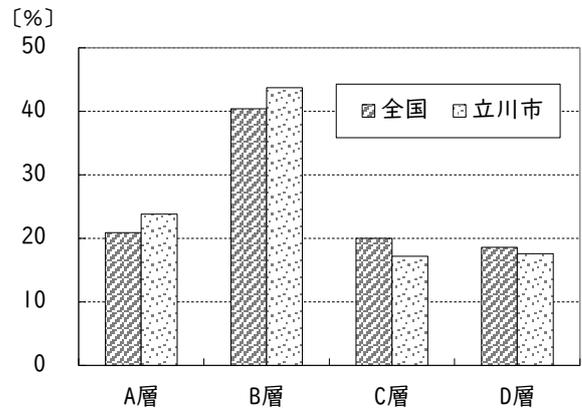
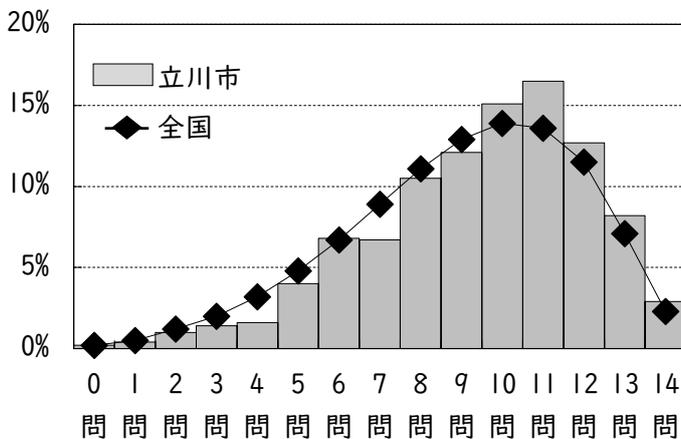
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編より

## 5 中学校国語の調査結果

### (1) 国語の調査結果の概要

平均正答率 [%] 立川市 67.0 全国 64.6

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



#### ◎概要の分析

※平成31年度と同様、全国と立川市との比較を行った。

- ・正答数分布をみると、A層、B層の正答率は全国よりも高い。
- ・四分位でみると、本市の生徒のA層、B層の割合は、全国より高く、7割近い。
- ・四分位で見ると、全国に比べてC層、Dの割合が低い。

### (2) 観点別結果

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
		全体	67.0	64.6
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	82.1	79.8
	書くこと	3	59.9	57.1
	読むこと	4	52.1	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	77.6	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	59.1	56.0
	話す・聞く能力	3	82.1	79.8
	書く能力	3	59.9	57.1
	読む能力	4	52.1	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	77.6	75.1

#### ◎観点別結果の分析

- ・書くこと、読むことの領域は、全国の平均を上回っているが、いずれも平均正答率は高くない。
- ・各観点とも、全国の平均の数値を上回っているが、読む能力の平均正答率は高くない。

### (3) 国語の設問ごとの正答率と分析

設問番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市 (公立)		全国 (公立)	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1-1 (選択式)	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	92.6	0.0	89.7	0.2
1-2 (選択式)	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	93.4	0.0	92.5	0.2
1-3 (記述式)	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	60.2	3.6	57.1	3.4
2-1 (選択式)	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	28.2 ↑	0.4	24.8 ↑	0.3
			正答率に着目			
2-2 (記述式)	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	78.5	7.5	74.5	8.5
3-1 (選択式)	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	47.9	0.4	43.7	0.4
3-2 (選択式)	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	62.8	0.5	58.7	0.4
3-3 (短答式)	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	72.9	7.7	71.0	7.3
3-4 (記述式)	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	24.7	24.2 ↑	20.5	24.1
			無回答率に着目			
4-1① (短答式)	漢字を読む (伸ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む	97.7	1.7	97.5	1.5
4-1② (短答式)	漢字を読む (詳細)	文脈に即して漢字を正しく読む	91.2	2.3	88.8	2.3
4-2 (選択式)	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	79.4	1.3	74.0	1.1
4-3 (短答式)	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う	42.2	2.0	40.3	1.7
4-4 (記述式)	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	72.9	10.0	71.9	9.7

## 6 中学校国語の問題と分析・授業改善のポイント

### 問題2一の分析（正答率に着目）

#### 【問題の概要】

意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する

※この問題では、意見文の下書きの構成にどのような工夫があるのかについて、複数の段落に着目して、段落番号を示しながら、選択肢にある意見や根拠、具体例といった言葉と、意見文の下書きの記述とを結び付けて捉え、選択式で解答する。

◇解答類型 ※類型1～38(最大)…正答・予想される解答、類型99…類型1～38以外の回答、類型0…無回答(記入のないもの)

	1 (正答)	2	3	99	無解答
市(%)	28.2	37.7	4.9	28.8	0.4
国(%)	24.8	37.1	4.7	33.1	0.3

#### 【分析】

- ・解答類型2は、上記のうち、段落番号を示しながら記述できていない解答の割合である。
- ・中学校国語14問中、正答率30%以下であった2問のうち1問であり、市の平均との差が-38.8ポイントである。

#### 【指導に当たって】

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整え、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導することが大切である。

自分が書いた文章の表現を確かめる際は、表現したことが、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか検討させて、誤解がなく、より効果的な表現になっているかを確認させる。

### 立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

E 互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

を活用する。

学習過程を踏まえ、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する

#### 「B書くこと」領域の構成

	学習過程
書くこと	題材の設定
	情報の収集
	内容の検討
	構成の検討
	考えの形成
	記述
	推敲
	共有

#### 推敲する際の観点（例）

<表記や語句の用法について>

- ・文字や表記が正しいか
- ・漢字と仮名の使い分け
- ・語句の選び方や使い方が適切か など

<叙述の仕方について>

- ・文や段落の長さ
- ・文や段落の役割
- ・段落の順序
- ・語順が適切か など

<表現の効果について>

- ・説明や具体例
- ・描写などの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているかなど。

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするために指導する際、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導することが大切です。

意見文のテーマの例

- 環境問題
- SNSの活用
- 働くことの意義 など

## 問題3四の分析（無解答率に着目）

### 【問題の概要】

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く

※この問題では、文章の一部から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用し、引用した表現から「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしているかについて、「吾輩」の接し方に関する具体的な自分の考えについて、記述式で解答する。

◇解答類型 ※類型1～38(最大)…正答・予想される解答、類型99…類型1～38以外の回答、類型0…無回答(記入のないもの)

	1 (正答)	2	3	4	99	無解答
市(%)	24.7	1.5	0.6	40.3	8.8	24.2
国(%)	20.5	2.1	0.3	44.6	8.5	24.1

### 【分析】

・解答類型2から4は、上記を満たしていない誤答の割合であり、特に割合の高い解答類型4は「吾輩」が「黒」を評価している表現を文章から適切に引用できていない誤答である。

### 【指導に当たって】

文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する必要がある。

自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで、自分の考えを確かなものにすると考えられる。

## 立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

E 互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

を活用する。

他者との関わりによって、叙述と結び付けた自分の考えを確かなものにするように指導する

### 「C読むこと」領域の構成

読むこと	学習過程
	構造と内容の把握(説明的な文章)
	構造と内容の把握(文学的な文章)
	精査・解釈(内容)
	精査・解釈(形式)
	考えの形成、共有

- ・個々の場面や描写から直接分かることを把握する
- ・複数の場絵面を相互に結び付ける
- ・各場面を登場人物の心情や行動、状況の描写と結び付ける
- ・自分の考えを確かなものにする(第1学年)
- ・考えを広げたり深めたりすること(第2、3学年)

文学的な文章を読む際には、登場人物の言葉や行動が話の展開などにどのように関わっているのかを考えながら読むように指導することが大切です。

### 伝え合う際の観点(例)

- ・取り上げた叙述について、どのように理解したかが書かれているか。
- ・具体的な叙述を基にした考えが書かれているか。
- ・自分自身の考えと共通している点や異なっている点はどこか。など

具体的な叙述に基づく自分の考えを持ったうえで、互いの考えを交流することで、作品の受け止め方がより豊かなものになると考えられます。

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編より

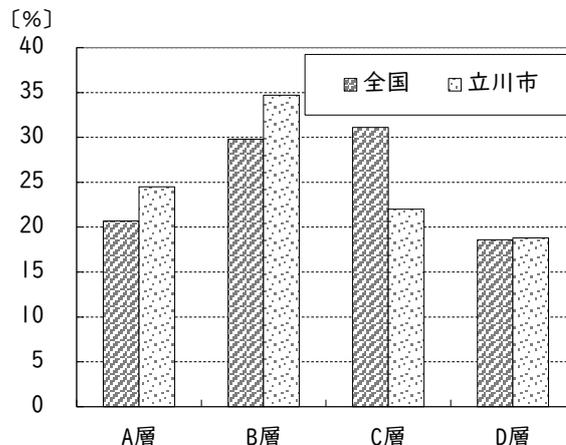
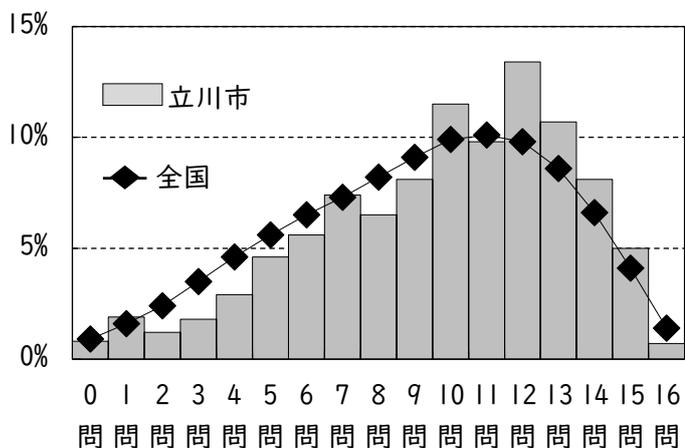
令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 中学校授業アイデア例 より  
(令和3年9月 国立教育政策研究所教育課程研究センター)

## 7 中学校数学の調査結果

### (1) 数学の調査結果の概要

平均正答率 [%] 立川市 61.0 全国 57.2

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



#### ◎概要の分析

※平成31年度と同様、全国と立川市との比較を行った。

- ・正答数分布をみると、全国に比べて10問以上正答した人数の割合が高く、以下の割合が低い。
- ・四分位でみると全国と比較して、A B層の割合が高く、C層の割合が低い。C層については、全国平均との差が大きい。

### (2) 観点別結果

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
		全体	61.0	57.2
学習指導要領 の領域等	数と式	5	70.1	64.9
	図形	4	57.1	51.4
	関数	3	60.0	56.4
	資料の活用	4	54.4	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	7	44.7	41.1
	数学的な技能	3	81.1	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	70.0	65.6

#### ◎観点別結果の分析

- ・各観点とも、全国の平均を上回っている。
- ・数学的な見方や考え方の平均正答率は、全国を上回っているものの、半分以下の割合である。
- ・資料の活用の平均正答率も、全国を上回っているものの、半分程度の割合である。

### (3) 数学の設問ごとの正答率と分析

設問番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市 (公立)		全国 (公立)	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1 (短答式)	$(5x+6y) - (3x-2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	82.2	0.7	77.1	0.8
2 (短答式)	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくらることができる	77.5	6.2	71.3	7.6
3 (選択式)	中心角 $60^\circ$ の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している	75.5	0.4	68.1	0.3
4 (短答式)	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関係である」という形で表現する	関数の意味を理解している	54.9	7.5	48.0	9.3
5 (短答式)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる	83.7	1.6	84.5	1.0
6(1) (短答式)	四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	86.7	3.7	83.9	3.5
6(2) (記述式)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	69.6	10.3	61.8	15.4
6(3) (記述式)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	34.5	27.7	30.3	29.9
7(1) (短答式)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	94.3	2.5	93.5	2.0
7(2) (記述式)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	30.9	21.8	27.7	24.7
8(1) (短答式)	気温差が $9^\circ\text{C}$ 以上 $12^\circ\text{C}$ 未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる	84.4	5.0	83.0	4.2
8(2) (選択式)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いること的前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している	39.7	1.4	36.8	1.0
8(3) (記述式)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	9.6	35.3	11.1	32.2
			無回答率に着目			
9(1) (記述式)	四角形 $ABCE$ が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができる	50.7	3.9	44.3	3.6
9(2) (短答式)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線 $FE$ と直線 $BC$ の関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	71.3	14.1	64.3	14.2
9(3) (短答式)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	31.1	29.9	28.8	28.7
			正答率に着目 (-0.8)			

## 8 中学校数学の問題と分析・授業改善のポイント

### 問題9 (3) の分析 (正答率に着目)

#### 【問題の概要】

∠ARGや∠ASGの大きさについていつでもいえることを書く

※この問題では、∠ARG、∠ASGのそれぞれの大きさは変わらないこと(解答類型1)、∠ARG、∠ASGの大きさの数値(解答類型2)、∠ARG、∠ASGの大きさについて成り立つこと(解答類型3)の全てを短答式で解答する。

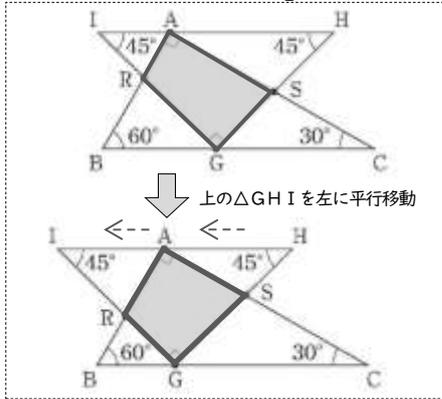
◇解答類型 ※類型1~38(最大)…正答・予想される解答、類型99…類型1~38以外の回答、類型0…無回答(記入のないもの)

	1 (正答)	2 (正答)	3 (正答)	4	5	99	無解答
市(%)	16.6	3.4	11.1	10.7	1.2	27.1	29.9
国(%)	16.0	2.6	10.1	8.9	1.6	32.0	28.7

#### 【分析】

- ・解答類型4は、ある条件下で、 $\angle ARG + \angle ASG = 180^\circ$  の他にいつでも成り立つ図形の性質を見いだすことができなかつた誤答の割合である。
- ・解答類型99が無回答に続いて多く、次のような解答の例が示されていた。

「 $\angle ARG = \angle ASG$ 」「 $\angle ARG$ と $\angle ASG$ は対角」「重なったところは四角形」



#### 【指導に当たって】

- ・ある条件下で成り立つ図形の性質を見いだすには、条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を捉える活動を行うことが考えられる。
- ・見いだしたことを数学的に表現するには、図形の観察を通して性質を見いだす場面、見いだした性質を関連付ける場面、記号等を適切に用いて表現する場面の設定が必要になる。

### 立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

C 発見したきまり・ルール・しくみなどを伝え合う

を活用する。

ある条件下でいつでも成り立つ図形の性質を見だし、数学的に表現できるように指導する

#### 学習の流れ(例)

1 三角定規が重なったところのできる四角形について、図形の性質を見いだす。

観察や操作、実験などの活動を通して、いつでも成り立つ事柄を見いだす。

2 予想したことが成り立つことを数学的に説明する。

3 四角形ARG Sについての考察を振り返り、その特徴をまとめる。

T: 重なったところのできる四角形ARG Sは、どのような四角形ですか  
C: 特徴がない普通の四角形です  
T: 四角形ARG Sについて、どのようなことがいえそうか考えてみましょう

T:  $\triangle GHI$ を動かしたとき、 $\angle ARG$ の大きさが一定であると予想したことが成り立つことを説明してみましょう。  
※T: 教員 C: 生徒

図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることや条件を保ったまま図形を動かしても成り立つ事柄を見いだすことが大切です。

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 中学校授業アイデア例 より  
(令和3年9月 国立教育政策研究所教育課程研究センター)

## 問題8 (3) の分析 (無解答率に着目)

### 【問題の概要】

「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する

※この問題では、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて、記述式で解答する。

◇解答類型 ※類型1~38(最大)…正答・予想される解答、類型99…類型1~38以外の回答、類型0…無回答(記入のないもの)

	1 (正答)	2 (正答)	3	4	5	6	7	8	9	10	99	無解答
市(%)	3.2	6.4	0.2	5.0	3.8	5.9	6.6	2.1	0.3	1.4	7.7	1.8
国(%)	3.1	8.0	0.3	4.7	3.1	5.8	8.1	1.6	0.1	1.4	7.2	1.7

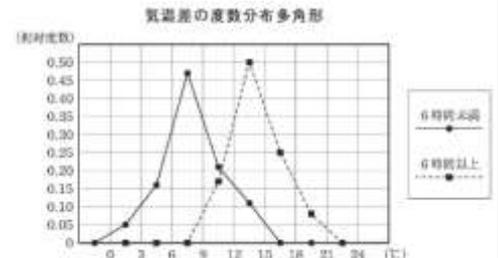
### 【分析】

- ・6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にあること、日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあることについて記述されている必要がある。
- ・解答類型4~8は、解答の記述が、上記必要な解答の一部、または、度数分布多角形から読み取れることのうち、求められる解答以外のこと(例えば、類型4は、2つの度数分布多角形の形状のみを記述)になっていた割合である。

### 【指導に当たって】

- ・見いだした分布の特徴が結論をいうためにふさわしい根拠かを判断し、数学的な表現を用いて説明できるようにする活動を取り入れることが考えられる。

気温差(℃)	6時間未満		6時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
0 ~ 3	1	0.05	0	0.00
3 ~ 6	3	0.15	0	0.00
6 ~ 9	9	0.45	0	0.00
9 ~ 12	4	0.20	2	0.17
12 ~ 15	3	0.15	6	0.50
15 ~ 18	0	0.00	3	0.25
18 ~ 21	0	0.00	1	0.08
合計	10	1.00	12	1.00



## 立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

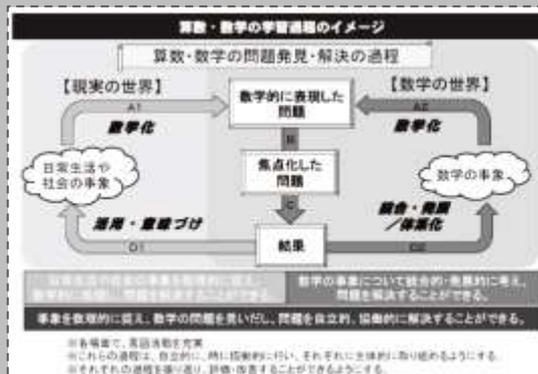
E 互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

を活用する。

日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導する

統計的に問題解決する際に、相対度数を用いる必要性について検討する

- ・大きさの異なる二つ以上の集団のデータを比較する際に、相対度数を用いた方がデータの傾向について比較しやすくなることを知る。
- ・相対度数を用いると、各階級の度数について、総度数に対する割合が明らかになることを知る。
- ・相対度数は、全体(総度数)に対する部分(各階級の度数)の割合を示す値で、各階級の頻度とみなされることを知る。等



データの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが大切です。

問題解決した後に相対度数を用いることのよさを振り返る

- ・大きさの異なる二つの集団のデータの傾向を比較する際には、縦軸を度数ではなく、相対度数とすることの必要性を確認する。
- ・相対度数を用いることのよさを実感できるようにする。等

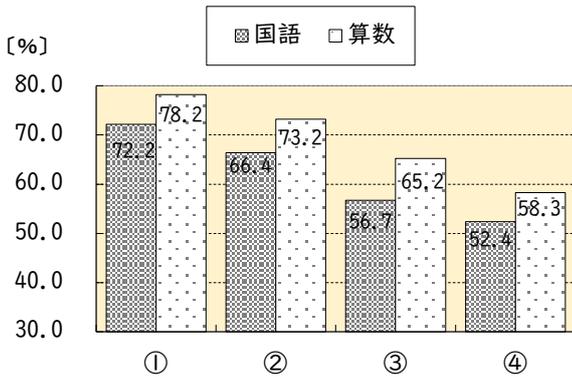
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編より

# 1 | 学習に関する調査結果の概要〈授業改善のポイント〉

## (1) 児童質問紙の結果と平均正答率との相関及び授業改善のポイント

表中の①～④は、児童質問紙において、①「当てはまる」、②「どちらかといえば、当てはまる」、③「どちらかといえば、当てはまらない」、④「当てはまらない」と回答したそれぞれの児童の平均正答率を示している。

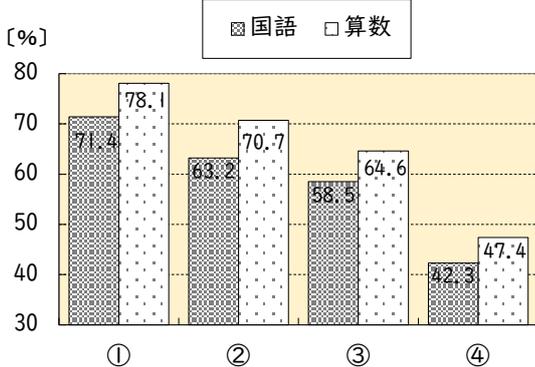
◇算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようノートに書いていますか。



### 授業改善（ノート指導）のポイント

- 1 日付、単元名、めあて、問題が明記されているか。
- 2 解き方や考え方（プロセス）、理由などが明記されているか。
- 3 自分と異なる考えや解き方が明記されているか。
- 4 めあてに対する振り返りができるよう明記されているか。

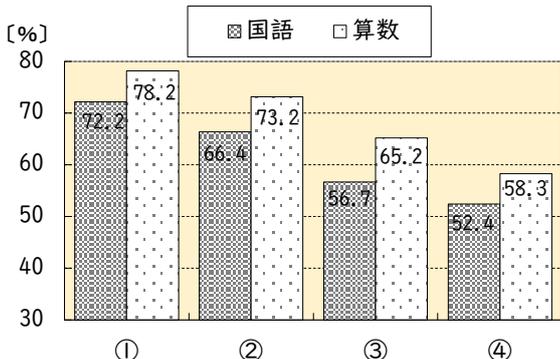
◇課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



### 授業改善のポイント

- ・各教科等の学習を通して
- 1 学習問題・課題に対し、既習事項や生活体験等を踏まえて、予想（+理由）を立てさせ、説明させているか。
- 2 予想を確かめるための方法・実験等の計画を立てさせているか。（教師の立案・計画から児童自らの立案・計画へ！）

◇自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



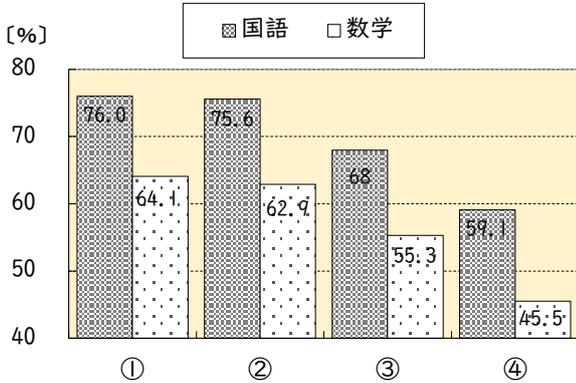
### 授業改善のポイント

- ・各教科等の学習を通して
- 1 学習問題・課題に対し、既習事項や生活体験等を踏まえて、予想（+理由）を立てさせ、説明させているか。
- 2 予想を確かめるための方法・実験等の計画を立てさせているか。（教師の立案・計画から児童自らの立案・計画へ！）

## (2) 生徒質問紙の結果と平均正答率との相関及び授業改善のポイント

表中の①～④は、生徒質問紙において、①「当てはまる」、②「どちらかといえば、当てはまる」、③「どちらかといえば、当てはまらない」、④「当てはまらない」と回答したそれぞれの生徒の平均正答率（単位％）を示している。

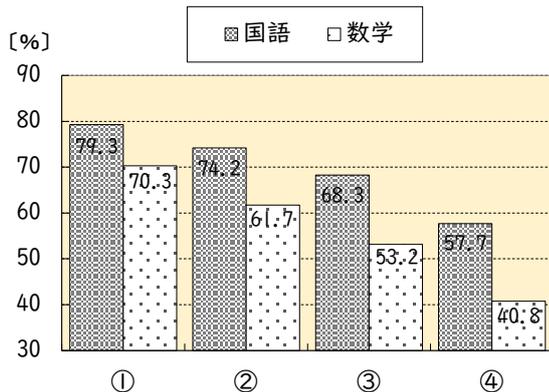
◇生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



### 授業改善（話し合い）のポイント

- 1 話し合いの目的が明確に示されているか。
- 2 何ができれば、話し合いのゴールになるか示されているか。
- 3 話し合う内容や考えをもたせているか。
- 4 話し合う方法が示されているか。
- 5 話し合いの結果を確かめさせているか。

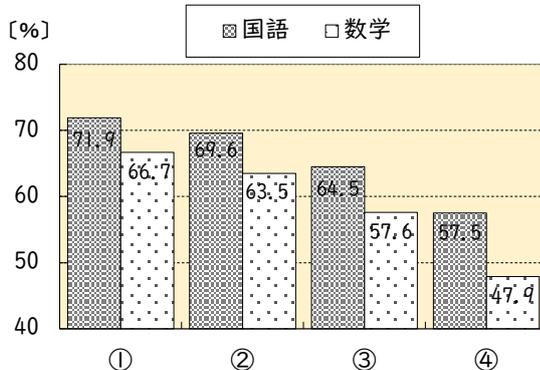
◇課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



### 授業改善のポイント

- ・各教科等の学習を通して
- 1 学習問題・課題に対し、既習事項や生活体験等を踏まえて、仮説（予想＋理由）を立てさせ、説明させているか。
- 2 仮説を確かめるための検証方法・追究方法の計画を立てさせているか。（教師の立案・計画から生徒自らの立案・計画へ！）

◇自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



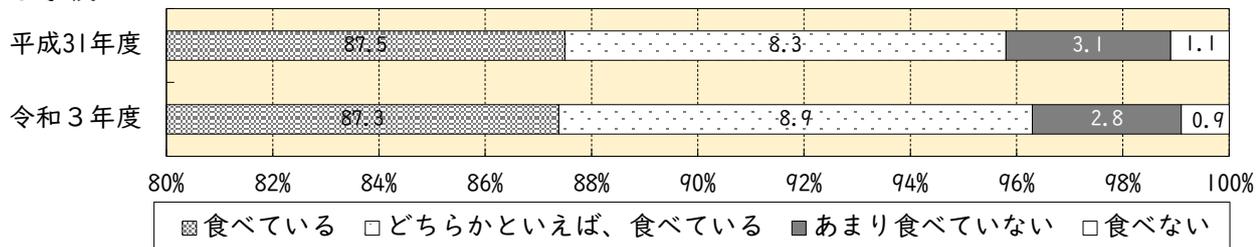
### 授業改善のポイント

- ・各教科等の学習を通して
- 資料収集・調査活動・実験等の後に、その結果を分類・整理させているか。
- 分類・整理した結果を表やグラフ等にまとめさせているか。
- 表やグラフ等をもとに、考察させているか。
- 結果・考察及び、問題解決的な過程について説明する場面を設定しているか。

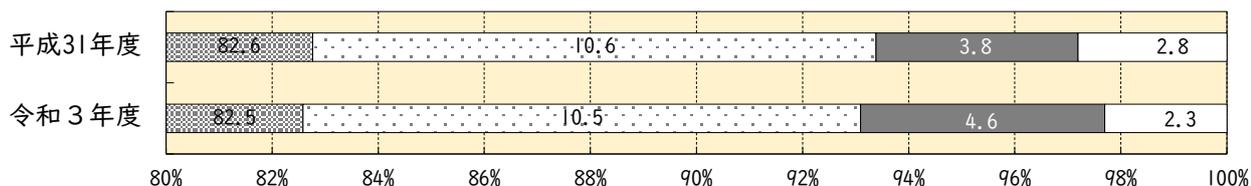
## 12 生活習慣に関する調査結果の概要

### ① 朝食を毎日食べていますか。

小学校



中学校

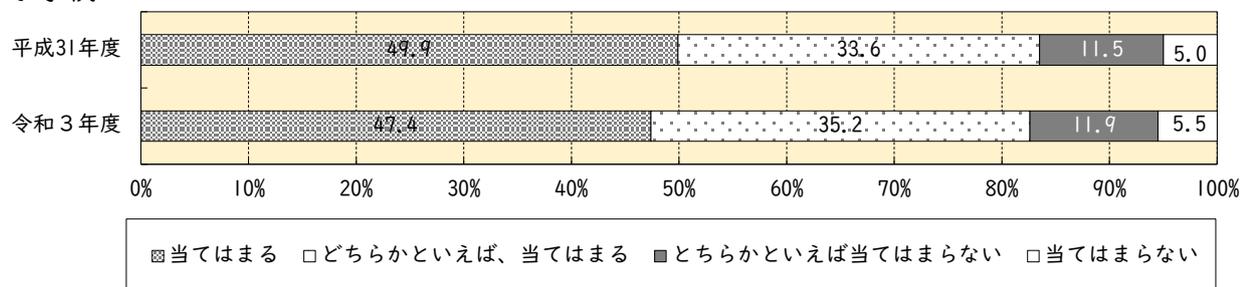


「朝食を毎日食べていますか」という質問に対し、平成31年度と比較して、「食べている」と回答した、児童の割合は0.2ポイント減少、生徒の割合は0.1ポイント減少している。

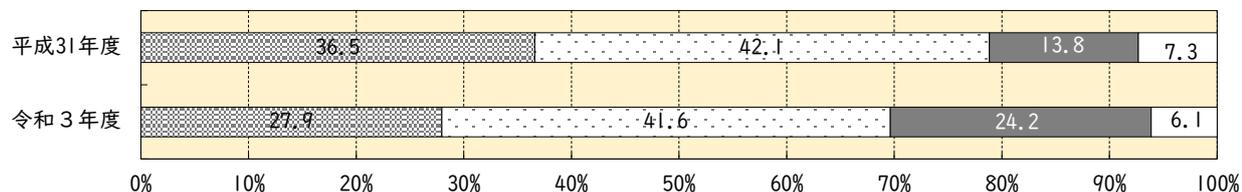
また、「食べない」と回答した、児童の割合は0.2ポイント減少、生徒の割合は同数となっている。今後、より一層、関連諸機関との連携を図るとともに、家庭の理解と協力を得ながら、児童・生徒の基本的な学習習慣を確立できるよう指導の徹底を図っていくことが重要である。

### ② 学校に行くのは楽しいと思いますか。

小学校



中学校

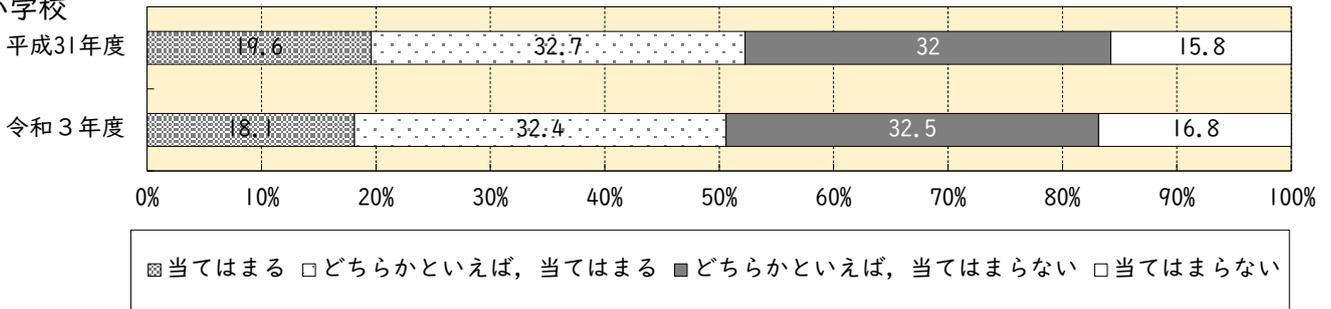


今年度は「学校のきまり・規則を守っていますか。」という質問が無くなり、経年比較ができなくなったため、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問を平成31年度の本市の結果と比較した。平成31年度と比較して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した、児童の割合は0.9ポイント低く、生徒の割合は9.1ポイント低い。また、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した、児童の割合は0.9ポイント高く、生徒の割合は9.2ポイント高くなっている。

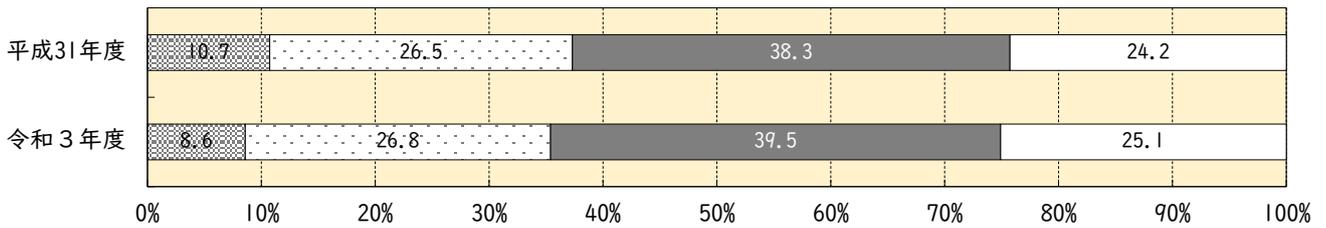
コロナ禍以前の学校生活を体験している子どもたちが、これまで当たり前のように行っていたことが、行えない中で2年間を過ごしていることが、少なからず影響していると考えられる。

③ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか。

小学校

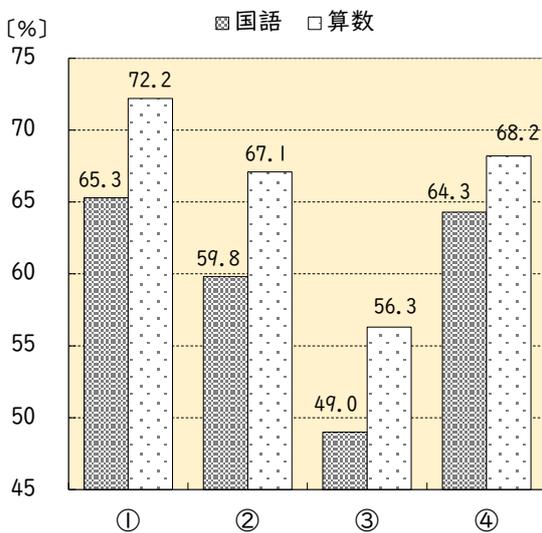


中学校

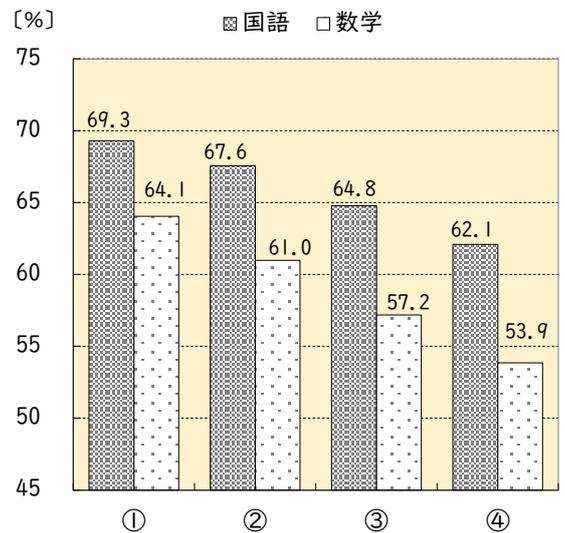


平成31年度については、児童、生徒が「立川市民科」で地域に出て活動する学習を踏まえて回答したと思われる。令和3年度は、小中学校ともに、否定的な回答が微増している。コロナ禍により、積極的に地域にでたり、様々な方と関わったりすることを通じた学びに制限があるなかでも、感染症対策に取り組んできたこと、タブレット端末を活用した人との関りを通じた学びが行われてきたこと、新しい日常の中で、他者を意識した生活を送ってきたこと等により、否定的な回答の急激な増加にはならなかったのであろうと考えられる。

小学校 回答別正答率



中学校 回答別正答率



平均正答率との関連で見ると、小中学校で「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向がみられる。

## 13 学校質問紙調査の結果

### (1) 「カリキュラム・マネジメント」

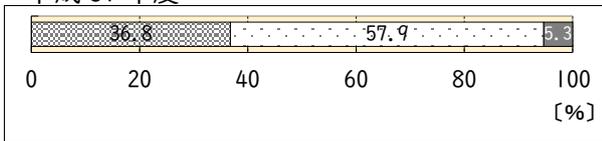
・表中の数値は、学校質問紙において、以下のように回答した学校の割合（単位：％）を示している。

	「よくしている」、		「どちらかといえば、している」、
	「あまりしていない」、		「全くしていない」

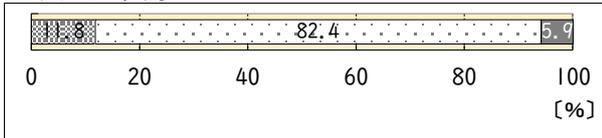
1 指導計画の作成にあたっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列している。

#### ◆小学校〈学校質問紙調査〉

平成31年度

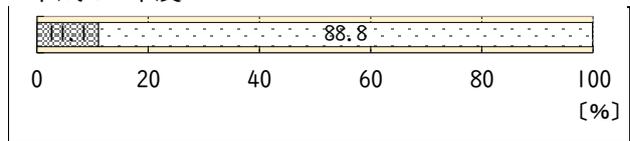


令和3年度

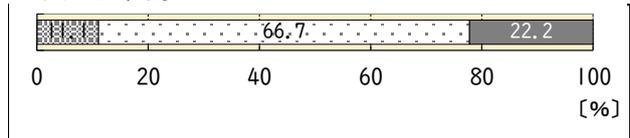


#### ◆中学校〈学校質問紙調査〉

平成31年度



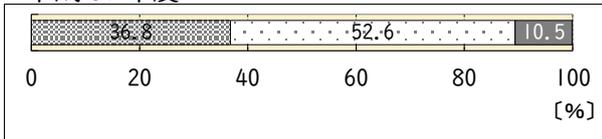
令和3年度



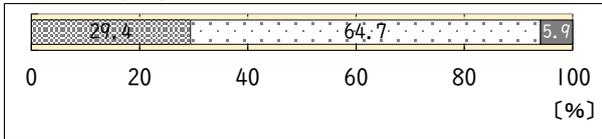
2 児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。

#### ◆小学校〈学校質問紙調査〉

平成31年度

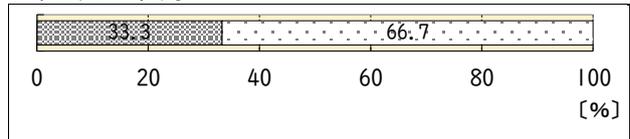


令和3年度

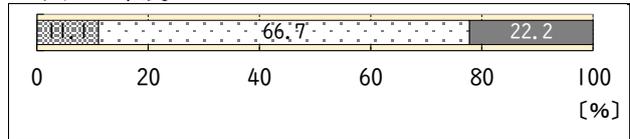


#### ◆中学校〈学校質問紙調査〉

平成31年度



令和3年度



指導計画の作成については、小学校の「よくあてはまる」が大幅に減ってはいるが、肯定的な回答を合わせた割合は横ばいである。一方、中学校で「あまりしていない」が大幅に増加した。横断的な学びの範囲が広がる中学校においては、コロナ禍の制限により、職場体験等の地域を舞台にした学びを十分に展開できなかったことが要因になっていると考えられる。

教育課程のPDCAについては、小・中学校とも、ネットワーク型学校経営システムにより、カリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。中学校の「あまりしていない」が大幅に増加したのは、新しい学習指導要領が全面実施になり、評価規準の変更等への対応に追われている実態が影響している可能性が考えられる。

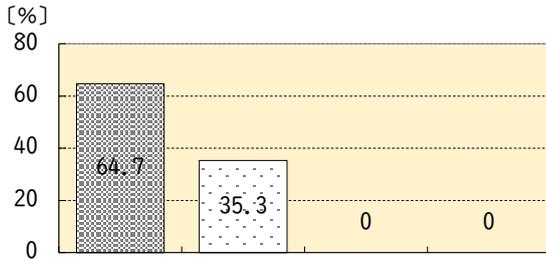
## (2) 学習指導—学校質問紙調査と児童・生徒意識調査の比較

・表中の数値は、学校質問紙及び児童・生徒質問紙において、以下のように回答した学校の割合（単位：％）を示している。  
 ■「よくしている」、▨「どちらかといえば、している」、  
 ■「あまりしていない」、□「全くしていない」

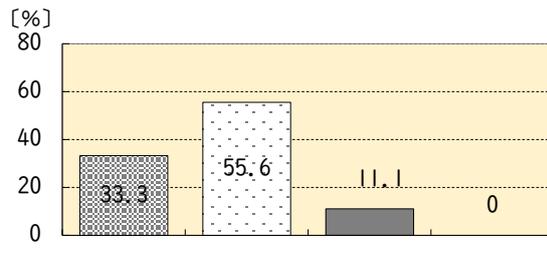
### 1 児童・生徒の自己肯定感を育む指導について

- ① 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。

学校質問紙〈小学校〉

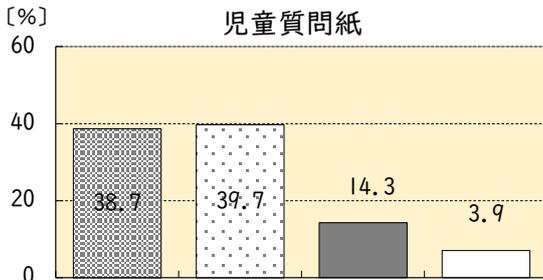


学校質問紙〈中学校〉

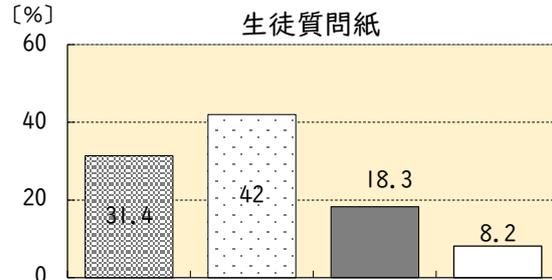


- ② 自分には、よいところがあると思いますか

児童質問紙



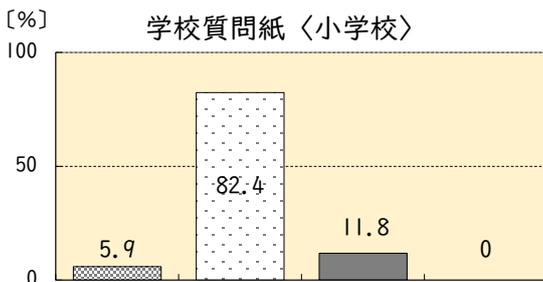
生徒質問紙



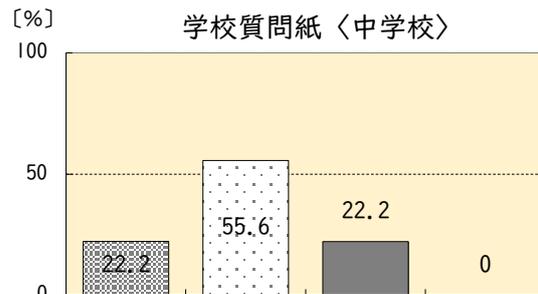
### 2 主体的な学習について

- ① 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

学校質問紙〈小学校〉

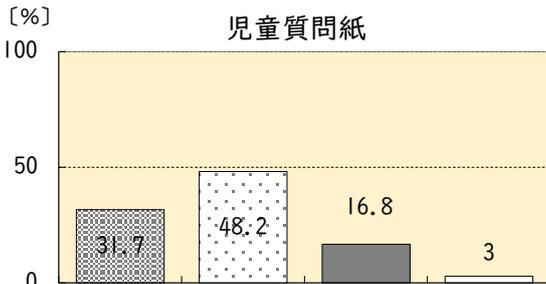


学校質問紙〈中学校〉

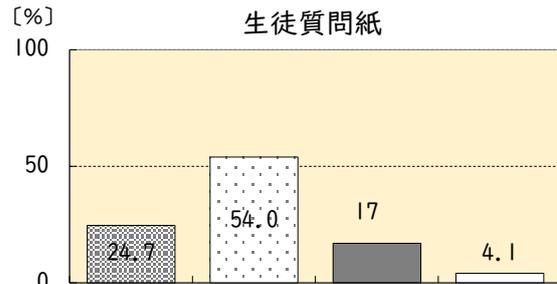


- ② 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

児童質問紙



生徒質問紙



## 14 各教科等における授業改善のポイント

### (1) 「立川スタンダード 20ver.3」①～⑳に関する自己評価の実施

職層や経験年数を問わず市内全教員に求められる授業の基礎・基本となる①～⑳について自己評価する。

①授業の「ねらい」「指導方法・内容等」を週ごとの指導計画に位置付けている。	
②授業終了後、顕著な児童・生徒の発言、気になる児童・生徒のつぶやき等を「週ごとの指導計画」に位置付けている。	
③授業規律や授業のルールが学年・学校で共通理解・実践している。	
④発言するときのルールが徹底されている。(挙手、返事、起立)	
⑤授業開始の前に、机の上に教科書・ノート等をそろえている。	
⑥授業開始の時間を守っている。	
⑦授業の挨拶をしている。	
⑧既習事項及び生活体験に基づく導入をしている。	
⑨「単元(題材)名」「学習のめあて」を明示している。	
⑩「学習問題(課題)」及び「仮説(予想+理由)」を立てさせている。	
⑪意図的な発問をしている。(「いつどこで何が誰がどうした? 式は答えは?」→「どのように?なぜ?何のために?」「もし~だとしたら?」「どうすれば?」)	
⑫児童・生徒の表情をよく観察し、児童・生徒のつぶやきを取り上げるとともに、机間指導等で児童・生徒の学習状況を把握している。	
⑬構造的な板書をしている。	
⑭児童・生徒自らの考えを表現できる場を設定している。(ペア、グループ、全体)	
⑮児童・生徒の学び合い(相互評価)の場を設定している。(比較・関連付け・統合)	
⑯「学習のめあて」が達成できたか、児童・生徒の振り返り(自己評価)の場を設定している。	
⑰児童・生徒を机間指導で評価し、到達度も把握している。	
⑱授業の挨拶をしている。	
⑲授業終了の時間を守っている。	
⑳習得した知識や技能を、補充する課題・活用する課題(宿題)を出している。	

- (例)・自己評価に基づく実践に対して指導・助言を依頼する(管理職による授業観察、校内OJT等)。  
 ・主任や主幹教諭等、または教員経験の長い教員が若手の教員を対象とした師範授業を行い、①～⑳の具体を参観させて授業改善の具体像をイメージできるようにする。※形式的にならないよう、子どもの学びの姿と対応させて捉えさせ、授業改善につなげる。  
 ・①～⑳の自己評価を校内研究における教員の実態把握として活用し、研究を行う土台作りに活用する。

### (2) 「主体的な学びの視点」「対話的な学びの視点」「深い学びの視点」による学習活動の改善

東京都や国の先行研究等を参考に、3つの視点による授業改善を検討し、実践する。

(例)「東京都多摩地区教育推進委員会第23計画(通算第44年次)報告書」平成30年2月を活用する。

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
子どもの学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 興味・関心をもつ</li> <li>○ 問題(課題)意識をもつ</li> <li>○ 自己の課題をもつ</li> <li>○ 予想を立てる</li> <li>○ 解決の方法や手順を計画する</li> <li>○ 既習内容を生かす</li> <li>○ 新たな気づきを生み出す</li> <li>○ 粘り強く取り組む</li> <li>○ 解決の過程を振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 改善点を見いだす</li> <li>○ 新たな課題に気付く</li> <li>○ 成果や課題を自覚する</li> <li>○ 考えのよさに気付く</li> <li>○ 考えの違いに気付く</li> <li>○ よりよい考えを見いだす</li> <li>○ 考えを統合する</li> <li>○ 考えを吟味・検討する</li> <li>○ 先哲の思いや願いを捉える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考えを再構築する</li> <li>○ 学びを自覚して、実践する</li> <li>○ 知識を相互に関連付けて考える</li> <li>○ 問題を発見し、解決方法を考える</li> <li>○ 情報を精査して考えを形成する</li> <li>○ 思いや考え(意図)を基に創造する</li> <li>○ 他の単元(題材)や教科等につなげて考える</li> <li>○ 生活や社会につなげて考える</li> </ul>

上表「子どもの姿」を参考に、教科や単元の学習で育成を目指す、より具体的な子どもの姿を設定し、授業改善につなげる。

- ・発達段階等を踏まえ、より具体的な目指す子どもの姿を設定
- ・その姿を実現するための教師の指導の手だてを検討
- ・授業の実践を振り返り、実際に現れた子どもの姿を基に、指導の手だてを再検証
- ・多面的・多角的に子どもの実態を把握し、目指す子どもの姿を修正
- ・改善策を講じた授業を実践

参考 学習指導要領解説 総則編 | 改訂の経緯及び基本方針(2)③イ (小P.3、中P.4)  
 学習指導要領解説 総則編 第3節 教育課程の実施と学習評価(1) (小P.76～、中P.77)

### (3)各教科の学習の過程を踏まえた指導

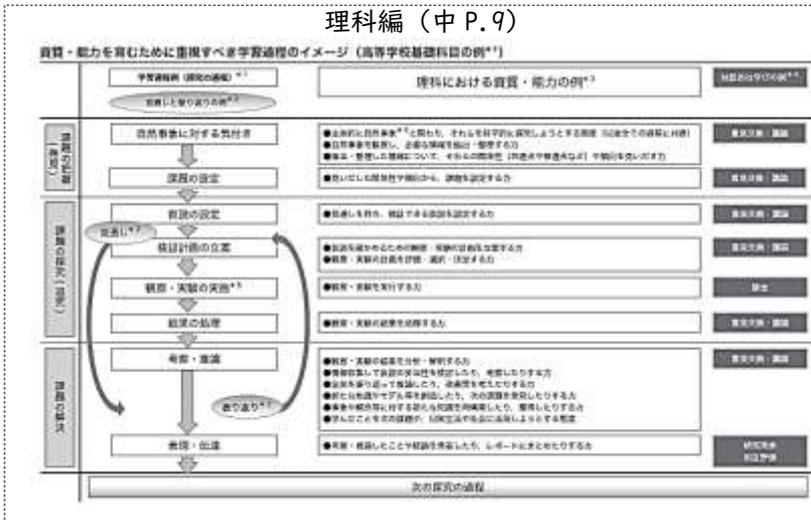
各教科等の特質に応じて、下表にあるような学習の過程を重視して、具体的な学習内容、単元（題材）の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにする。

思考・判断・表現の過程には大きく三つがあると考えられている。
物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

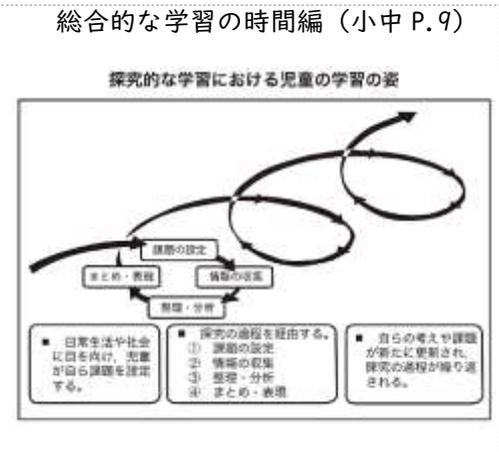
参考 学習指導要領解説 総則編 第3章 第3節1(1) (小P.78～、中P.79～)より

### (参考) 各教科等の学習指導要領解説より

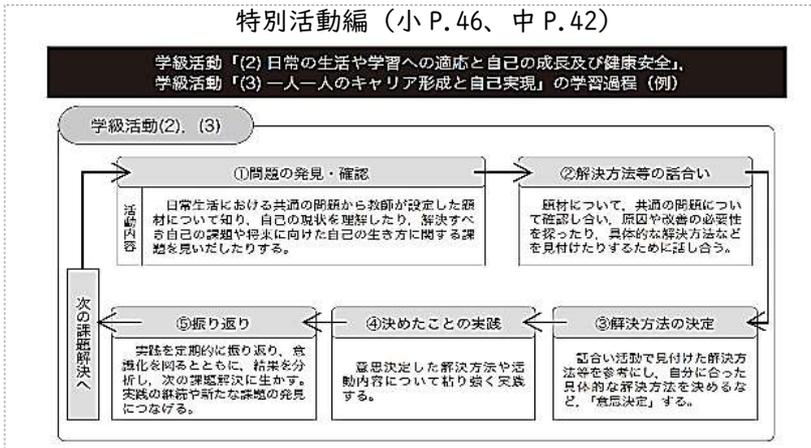
#### 理科編 (中P.9)



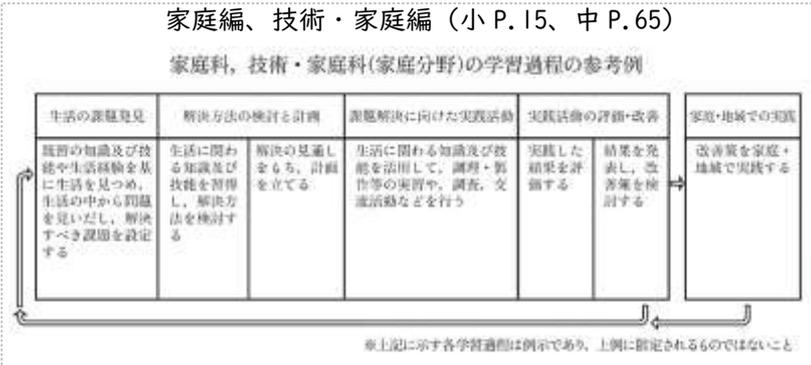
#### 総合的な学習の時間編 (小中P.9)



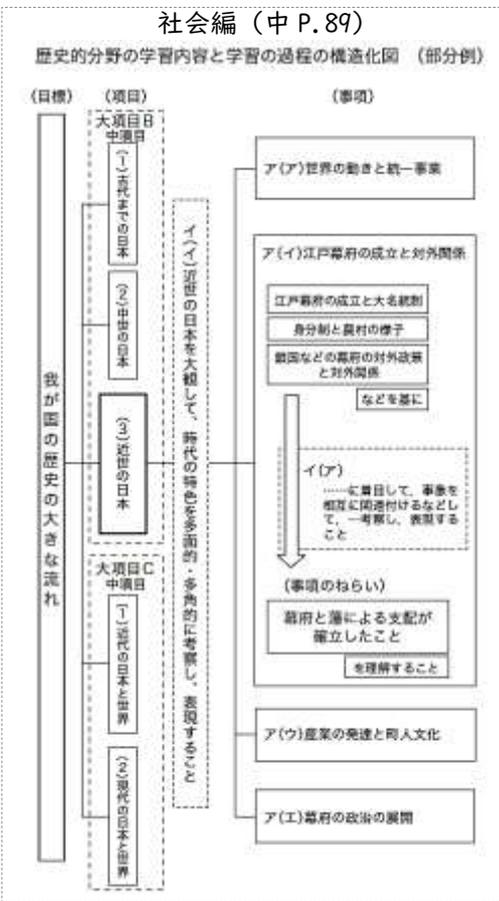
#### 特別活動編 (小P.46、中P.42)



#### 家庭編、技術・家庭編 (小P.15、中P.65)

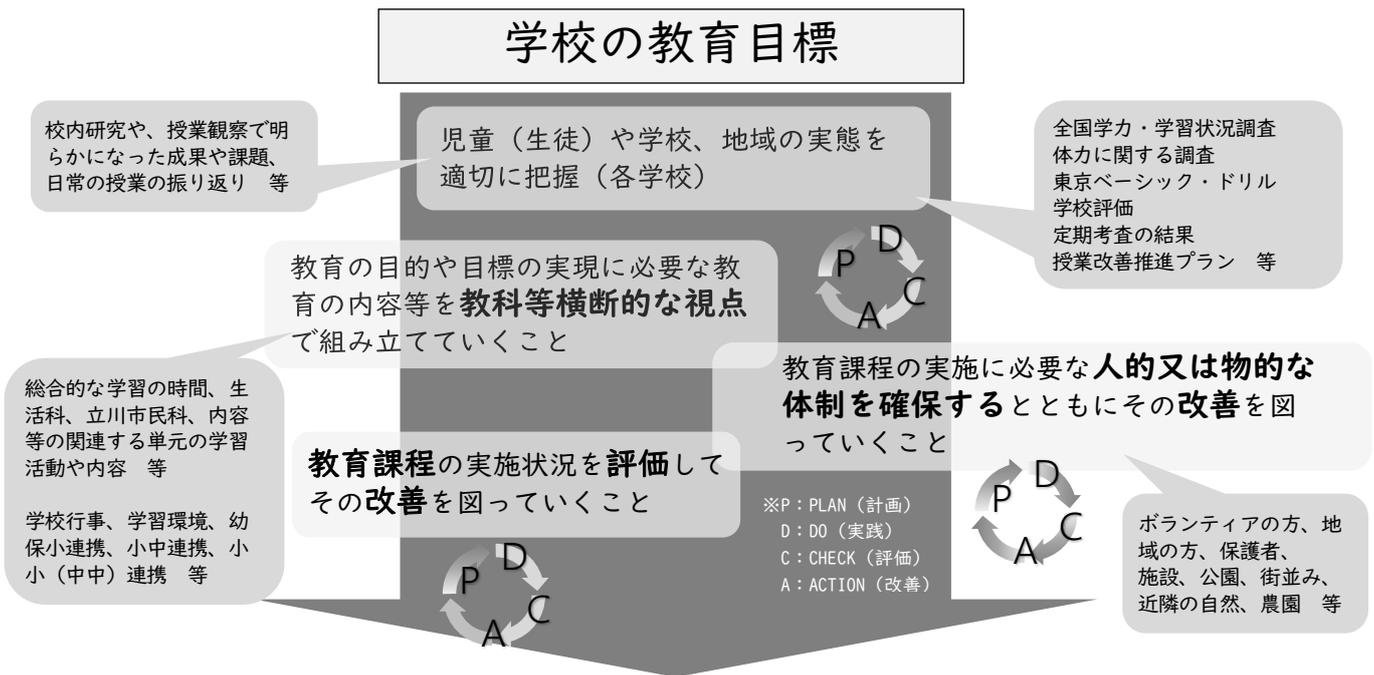


#### 社会編 (中P.89)



# 15 カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメント（小中学校学習指導要領 総則 第1章 第1 4より）



## 教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと

